

大井ふ頭コンテナバースの耐震化

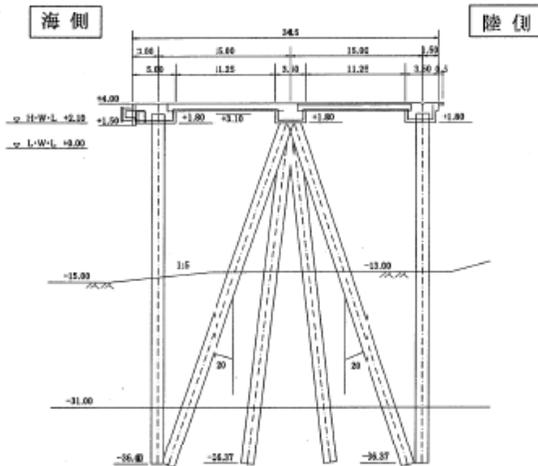
【事業目的】

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、震災時に最低限必要な国際物流機能を確保するため、高規格・大水深コンテナターミナルの主力である埠頭公社岸壁を公共で耐震補強する「国際海上コンテナターミナル耐震強化促進のための新制度」を活用し、直轄事業として大井ふ頭の新4、新5、新6の3バースについて岸壁水深を（-13m）から（-15m）に増深するとともに耐震強化岸壁として整備するものである。

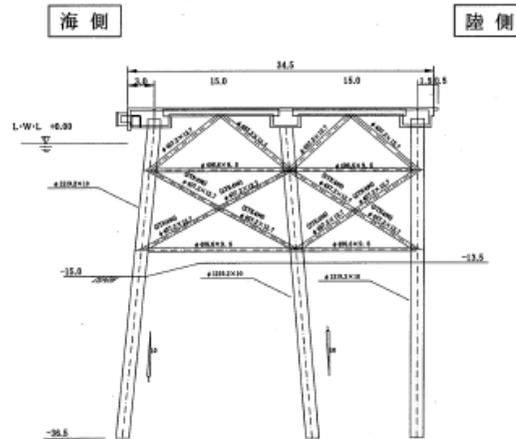
【対象事業】

- ・ 整備施設 : 新4バース 幅34.5m×延長330m 構造形式PC桁・斜杭式栈橋
- : 新5バース 幅34.5m×延長330m 構造形式ジャケット式栈橋
- : 新6バース 幅34.5m×延長330m 構造形式PC桁・斜杭式栈橋
- ・ 整備箇所 : 東京港 大井ふ頭
- ・ 事業期間 : 平成11年度～平成14年度
- ・ 構造形式

新4、6バース
(PC桁・斜杭式栈橋)



新5バース
(ジャケット式栈橋)



新5バースの構造については、隣接バースが供用中のため、施工の作業スペースに制約があることから、ジャケット式栈橋を採用した。

